

## 「心のバリアフリーノート」作成に向けて

### 1. 経緯

平成29年2月20日、ユニバーサルデザイン2020関係閣僚会議において、「ユニバーサルデザイン2020行動計画」が取りまとめられ、その中で、学校教育において「心のバリアフリー」の教育を展開するための具体的施策として、次期学習指導要領の全面実施に先行して、すべての子ども達に「心のバリアフリー」に関する理解を深めるため、自分ごととして受け止め、生きて働く知識や経験とするための「心のバリアフリーノート（仮）」の作成を検討することについて明記された。

(参考) ユニバーサルデザイン2020行動計画(抜粋)

#### Ⅱ. 「心のバリアフリー」

##### 2. 具体的な取組

(具体的施策)

##### ①すべての子供達に「心のバリアフリー」を指導

次期学習指導要領の改訂に向けた中央教育審議会の答申(2016年12月21日)を踏まえ、2020年(平成32年)以降順次実施される学習指導要領改訂において、道徳をはじめとして音楽、図画工作、美術、体育などの各教科や特別活動等において「障害の社会モデル」を踏まえ、「心のバリアフリー」に関する理解を深めるため指導や教科書等を充実させる。

(中略)

上記の学習指導要領の改訂に先行して、平成29年度中までに、これらの指導をクロスカリキュラムの中で自分事として受け止め、生きて働く知識や経験とするための「心のバリアフリーノート（仮）」の作成を含めた取組の検討を進める。

### 2. 検討内容

全ての学校で児童生徒の発達の段階を踏まえた教科等横断的な指導が可能となる「心のバリアフリーノート」の構成及び内容を検討し、「心のバリアフリーノート」を作成する。

### 3. 考えられる構成及び内容等のイメージ (別紙参照)

「心のバリアフリーノート」の構成及び内容については、例えば、

- ・「心のバリアフリーに関する基本的な理解」
- ・「心のバリアフリーについて考える学習」

が指導可能なものとする事で検討してはどうか。

- ・対象学年については、心のバリアフリーに関する学習は、各学校の創意・工夫により児童生徒の発達段階に応じた様々な取組が行われていることを鑑み、心のバリアフリーノートについては、心のバリアフリーについて、小・中学校が各教科等を通じて横断的に学習する際に活用されることを主な目的としつつ、高等学校での活用も含め、学年も横断した学習活動にも活用可能な教材とされるよう、対象学年を限定しないこと(イメージとして、小学校中学年以上の活用を想定)で検討してはどうか。

(別紙)

## 「心のバリアフリーノート」構成案

### ○「心のバリアフリー」に関する基本的な理解

8 ページ程度

関係省庁が作成した「心のバリアフリー」に関する既存の教材も参考にしつつ、小学校及び中・高等学校それぞれの発達の段階を踏まえた内容について検討してはどうか。

### ○心のバリアフリーについて考える学習

(小学校編、中・高等学校編)

12 ページ程度

教材 2 P (児童生徒用)、ワークシート 1 P (児童生徒用)、指導上の留意点 1 P (教員用) の計 4 P を一つのパッケージとすることを基本としてはどうか。

パッケージにおいては、心のバリアフリーに向けて、自分ができる具体的な行動について考える学習ができる内容も含めてはどうか。

その他、例えば、地域や国内、世界で活躍する障害のある著名人 (例えば、パラリンピック選手やピアニスト等) 等の協力を得て、コラムを入れてはどうか。